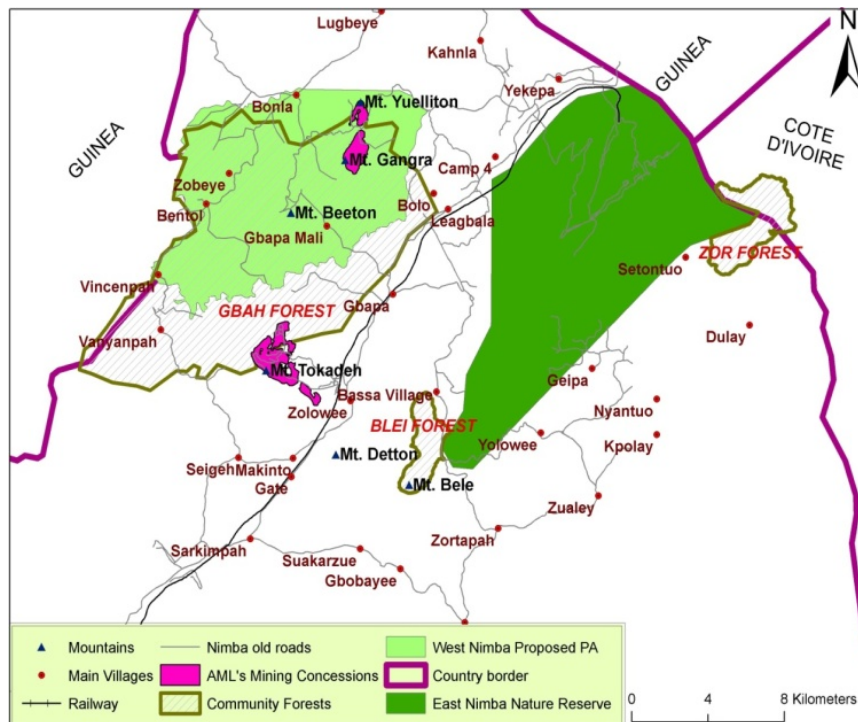


リベリア
ニンバ山脈地帯森林保全プロジェクト
現地からのお便り

2015年1月
コンサベーション・インターナショナル

東ニンバ山自然保護区の紹介

東ニンバ山自然保護区は、リベリアで第2番目の保護地域です。広さは1万3千ヘクタールあり、コミュニティが保有する3つの森に囲まれています。保護区の周りには36を超えるコミュニティが生活しています。保護区とその周りの森には、ウェスタン・チンパンジーや多くの種類のサルなどの特徴的な動物が暮らしています。森とそこに住む動物は、森の恵みを使って生活している地元のコミュニティから多くの圧力を受けています。狩猟、野生生物取引、移動耕作、非木材製品作り、文化的な儀式、木材の伐り出し、砂鉱床の採鉱、山火事などが森への脅威となっています。



東ニンバ山自然保護区の地図（濃い緑色の部分）

プロジェクトの概要

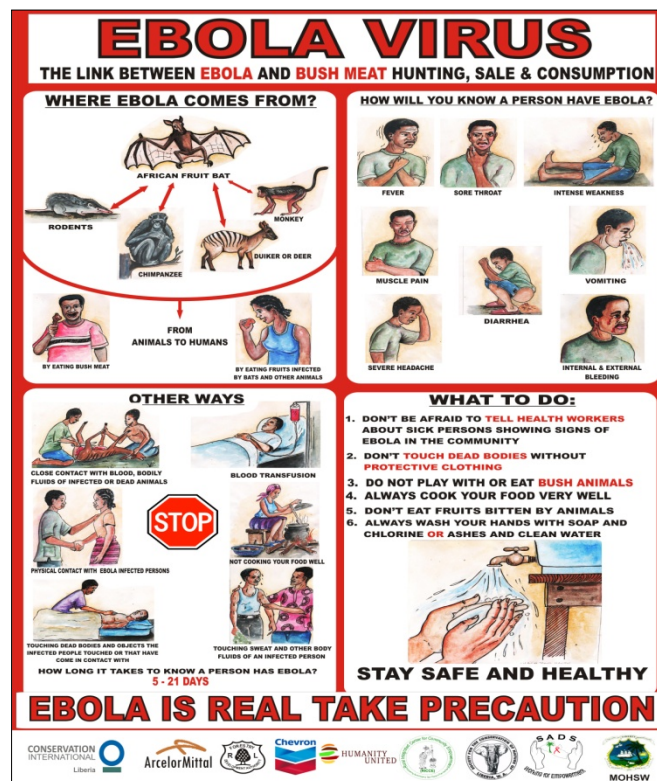
私たちは、東ニンバ山自然保護区の周りで、生物多様性を守るための教育や普及啓発のための活動を行います。また、保護区の周りの6つのコミュニティにおいて、パイロット的な保全契約の締結を通して、コミュニティの生活と森林管理の改善に努めます。

今期の活動

エボラ出血熱の流行という大きな保健医療面の課題に対処しつつも、私たちは同じ時期に、地方のコミュニティの生活を改善し、生物多様性を守るための活動を続けてきました。私たちは、この四半期に次の活動を行いました。

- 地元のコミュニティに対して、保全契約について働きかける
- 「いづらか食べて、いづらか残す」というキャンペーンを通して生物多様性を守るとともに、エボラ出血熱の広がりを防ぐための教育と普及啓発活動を続ける
- 「東ニンバ山自然保護区の管理行動計画」作りを通して、森林の管理に貢献する
- 地元のパートナーと協力しながら、5つのコミュニティでパイロット的に実施中の保全契約を通して、農業のやり方を改善する

私たちは野生生物を食することとエボラ出血熱の広がりが繋がっていることを、コミュニティに強く知らせました。私たちは、保護区周辺のコミュニティに向けて、普及啓発用の資料を作ったり、衛生状態をよくするための支援をしたりしました。



エボラ出血熱についての資料

(野生動物の肉の狩猟、販売、消費のエボラ出血熱への危険性を伝えています)

私たちは、森林開発局や他のパートナーと協力しながら、東ニンバ山自然保護区を管理するための行動計画を作りました。市民社会、民間企業、ドナー機関から様々な関係者が1週間にわたって参加し、行動計画を進めていくための仕組みを考えました。私たちもいろいろな重要な提案をすることができました。エボラ出血熱が収まり、現地での活動が再開されれば、

ここで作った計画を実行に移し、人々の暮らしを改善し、自然保護区とその周囲で保全活動を強化していく取組を進めていきます。



さまざまな関係者が参加して行われた行動計画作りの様子

エボラ出血熱と私たちの活動

エボラ出血熱の流行という緊急事態によって、私たちの現地での活動は影響を受けました。エボラ出血熱のために、コンサベーション・インターナショナルは半年間わたって直接現地に入ることができませんでした。そのため、コミュニティやパートナー機関の人々から私たちの活動への思いを疑問視する声が上がりはじめています。しかし、コンサベーション・インターナショナルのスタッフもここ数ヶ月のうちには現地を訪問できると考えており、状況を変えられると確信しています。

リベリア政府は、2014年10月から、ドナーの支援を受けて、エボラ出血熱の広がりを止めるための支援をしています。リベリアの保健省と世界保健機関（WHO）はエボラ出血熱の終結をまだ宣言していませんが、私たちは早く対策を取ることが成功につながると信じて再開の準備を進めてきました。私たちは、パートナーと一緒に、作業計画を見直し、関係者との関わり方についての戦略を練り、エボラ出血熱の予防策を検討しています。ここ数週間のうちに、再び現地のパートナーやコミュニティと一緒に活動を始められると期待しています。

挑戦

最近ニンバ郡のリーダーが交代したため、新しいリーダーからも私たちの活動への支援を得る必要があります。これまで、エボラ出血熱のために、電話以外の方法で直接新しいリーダーと接触することが難しい状況でした。私たちはこのリーダーシップの変化に対応する方法を構築してきていて、これからもニンバ郡で活動していきます。